

令和4年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立東小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和4年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和4年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	33人	算数	33人	理科	33人
第5学年	国語	27人	算数	27人	理科	27人

5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

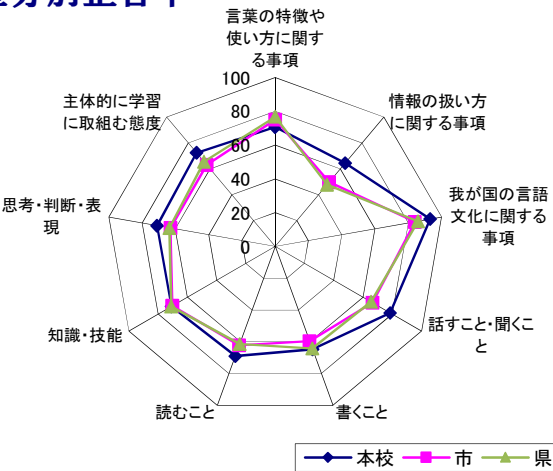
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立東小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	70.7	75.1	76.7
	情報の扱い方に関する事項	64.4	49.6	47.8
	我が国の言語文化に関する事項	93.1	84.0	85.9
	話すこと・聞くこと	78.6	66.5	65.5
	書くこと	64.7	59.6	64.2
	読むこと	69.0	62.2	61.5
観点	知識・技能	70.9	70.2	71.1
	思考・判断・表現	71.0	62.9	63.6
	主体的に学習に取り組む態度	72.4	63.0	65.5



★指導の工夫と改善

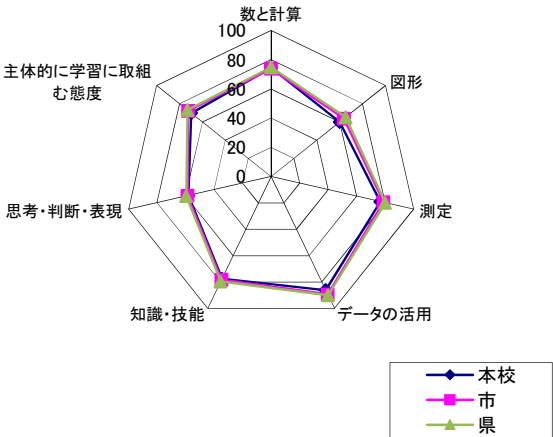
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は、県の平均を6.0ポイント下回った。 ○漢字の読みについては、正答率が90%前後で、県の平均と同程度であり、よく理解している。主語と述語の関係については、県の平均を5.0ポイント上回っている。 ●漢字を書くことについては、県の平均より20ポイント程度下回っている。ローマ字の読みについても県の平均を5.6ポイント下回っている。	・今後も漢字の読み書きについて、継続的に指導していく。特に、漢字を書くことについては、ICTも活用して繰り返し指導するとともに、漢字の意味と漢字を結び付けることによって、漢字の使い分けができるようにする。 ・ローマ字については、生活の中でローマ字にふれる機会をつくり、ローマ字表記に慣れ親しむようにする。
情報の扱い方に関する事項	平均正答率は、県の平均を16.6ポイント上回った。 ○国語辞典の使い方の正答率は72.4%で、県の平均を21.2ポイント上回っており、よく理解している。文章の中心となる語や文を捉えて読み取ったり、話し手が伝えたいことを捉えたりするなど、情報と情報との関係について理解する設問では、県の平均を15ポイント程度上回っている。	・今後も様々な機会に漢字の意味を調べる活動を継続的に取り入れ、国語辞典の使い方に慣れるようにする。 ・話や文章の中で、考えとそれを支える理由や事例について考えたり、全体と中心的な部分との関係について把握したりすることができるようにする。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、93.1%であり、県の平均を7.2ポイント上回った。 ○「漢字のへんやつくりを理解している」は、県の平均を7.2ポイント上回っている。	・今後も、新出漢字の学習の際に、漢字の部首を確認し理解を深めていく。また、同じ「へん」や「つくり」をもつ漢字を調べて集めることを通して、学習内容の定着を図る。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、県の平均を13.1ポイント上回った。 ○話すこと・聞くことの設問では、すべての項目で県の平均を上回っており、普段から話の内容を聞き取る力が身に付いている。特に、「相手に伝わるように、自分の考えを、理由を挙げながら話している」についての正答率は93.1%で、県の平均より23.2ポイント上回っている。	・「話すこと・聞くこと」の授業においては、今後も友達同士で話し合うことで多様な考え方にふれ、自分の考えを深めていけるよう指導していく。また、話を聞く学習では、メモをとるなどして、話の中心や伝えたいことを整理しながら聞くことができるように指導する。 ・学級活動など、学校生活の様々な場面を通して話合いの活動の場を設定し、自分の意見と理由、その根拠について適切に相手に伝えられるよう、段階を追って指導していく。
書くこと	平均正答率は、県の平均と同程度である。 ○「自分の考えを明確にして文章を書いている」についての正答率は、県の平均を3.9ポイント、「自分の考えとそれを支える理由や事例を明確にして文章を書いている」についての正答率は1.0ポイント、上回っている。 ●「指定された長さで文章を書いている」についての正答率は、県の平均を1.3ポイント下回っている。2段落構成で文章を書く条件に合っている児童の割合が48.3%と半数以下で、県の平均を1.5ポイント下回っている。	・文章を書くことに抵抗感がなくなるように、日記や短作文を書く機会を設ける。 ・条件に合った書き方ができるよう、国語の授業の中で字数を指定したり、段落を意識して作文することを意図的に設定する。
読むこと	平均正答率は、県の平均を7.5ポイント上回った。 ○「文章を読んで感じてことや分かったことを共有している」についての正答率は、県の平均を13.7ポイント、「情報と情報の関係について理解し、中心となる語や文を見つけて要約している」についての正答率は、13.6ポイント上回っている。 ●「場面の様子について叙述を基に捉えている」の正答率は、県の平均を8.7ポイント上回っているが、31.0%と全体的に低い。	・物語文では、登場人物の行動や気持ちなどについて、境遇や性格、会話、情景描写等の叙述を基に考えるなど、物語全体を通して複数の叙述から捉えていく。説明文では、段落の内容を捉えて段落相互の関係を考えたり、段落がどのような役割を果たしているのか構成図に表したりする活動を取り入れていく。それらの活動を通して、文章についての理解を深め、自分の考えをもてるようにする。

宇都宮市立東小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	74.5	73.8	74.8
	図形	60.0	63.7	65.3
	測定	76.6	78.9	80.1
	データの活用	86.2	89.3	90.0
観点	知識・技能	77.5	78.3	79.5
	思考・判断・表現	58.1	58.6	59.5
	主体的に学習に取り組む態度	69.8	72.3	73.1



★指導の工夫と改善

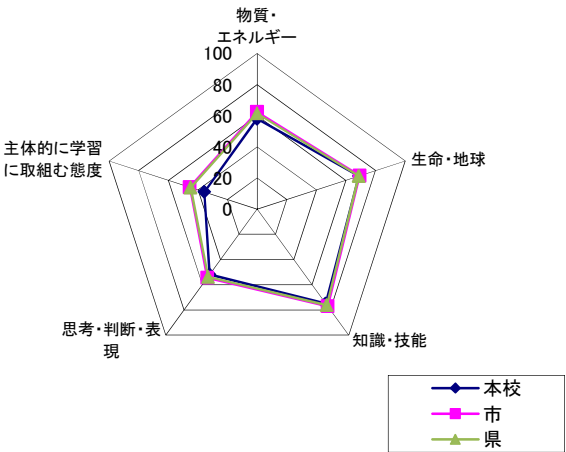
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、県の平均と同程度である。 ○「数直線上に示された分数を読み取ることができる」の正答率は79.3%であり、県の平均を11.2ポイント上回っている。 ●「小数の相対的な大きさについて理解している」「整数－小数第一位の計算ができる」「余りを切り上げて処理する」の正答率は、県の平均を10ポイント程度下回っている。	・小数に限らず、一つの数を様々な表し方で表す活動を授業の中で取り入れ、数の相対的な大きさについての理解を深める。 ・筆算の仕方について、仕組みや計算の手順を確認するとともに、AIDリルを活用するなど練習問題に取り組む機会を増やし、基本的な計算の習熟を図る。
図形	平均正答率は、県の平均を5.3ポイント下回った。 ○「円の直径について理解している」「大きさが同じ6個のボールがぴったり入っている箱の横の長さからボールの半径を求めることができる」の正答率は、県の平均と同程度である。 ●「二等辺三角形を作図することができる」の正答率は75.9%で、県の平均を12.2ポイント下回った。「円の中心と円周上の2点を結んでできる三角形が二等辺三角形になる理由を説明している」の正答率は県平均の13%より9.6ポイント下回っている。	・二等辺三角形の作図については、作図の仕方を復習すると共に、なぜそのように作図をすることが出来るのか、二等辺三角形の性質を確認する。また、図形の性質を活用する問題に触れる機会を取り入れていくようにする。 ・半径や直径との関係など、円の性質を改めて確認する。また、コンパスを使って円の作図をしたり、コンパスを使った模様を描いたりするなど、具体的な活動を通して、半径や直径の理解を深めていく。
測定	平均正答率は、県の平均を3.5ポイント下回った。 ○「身近にあるものの重さを推測して、適切な単位を使って表す」の正答率は75.9%で、県の平均を8.3ポイント上回っている。 ●「はかりの目盛りの読み方」の正答率は69%で、県の平均を17.5ポイント下回った。「道のりを読み取ってその和を求める」の正答率は75.9%で、県の平均を9.5ポイント下回っている。	・はかりの目盛りの読み方については、はかりの目盛りの仕組みを確認し、1目盛り表す重さの求め方や目盛りどんな間隔になっているのかについての考え方を指導する。また、針がさした目盛りに近い大目盛りを読み、次に小さい目盛りを読むなど読み方の手順を指導する。 ・道のりについては、距離と道のりの違いを理解できるように、授業の中で、距離と道のりの長さに着目して指導していく。
データの活用	平均正答率は、県の平均を3.8ポイント下回った。 ○「棒グラフを読み取り、2番目に多かった組を指摘することができる」の正答率は、県の平均と同程度である。 ●棒グラフの1目盛りを表す数についての問題の正答率は、県の平均を7.4ポイント下回っている。	・棒グラフの1目盛りを表す数については、数値と数値の間の大きさや最小目盛りがその数値の何等分しているかを考える必要があるため、2とび5とび10とびなどの数直線の学習を取り入れていくようにする。

宇都宮市立東小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	58.1	62.5	61.5
	生命・地球	68.8	69.2	68.6
観点	知識・技能	75.0	77.2	76.3
	思考・判断・表現	51.9	54.4	53.7
	主体的に学習に取り組む態度	35.7	45.5	44.9



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	平均正答率は、県の平均を3.1ポイント下回った。 ○鏡で反射した光を重ねたときの温度の変化を推測する設問では、県の平均を13.2ポイント上回っている。また、水を入れたペットボトルが光を集めたことを、虫眼鏡に適用できることについても、県の平均を8.3ポイント上回っている。 ●電気の通り道を回答する設問では、全体的に県の平均を下回っている。特に、回路を理解することや、電気を通す物と通さない物を理解することや適切な回路を構想することについては、10ポイント以上下回っている。また、磁石の性質について回答する設問では、県の平均は34.4%であるが、10ポイント以上下回っている。自由に動けるようにした磁石のN極は北を指すことを理解することでは、県の平均より17ポイント下回り、鉄くぎがどのような磁石になるかを指摘することでも14.5ポイント下回っている。	・コロナ禍の中で、子供たちの学習条件が厳しく制限されている中、可能な限り児童一人一人が関わり理解が深められるようにしていくとともに、単元の始まりや実験の導入時に普段の生活や既習事項と関連付けて考えられるように時間をとって予想や仮説を立ててから実験を行うようにする。 ・ICTを積極的に活用し、電気の流れや音の性質、風のはたらき等を視覚化された教材を多く用いることで、子供たちの理解の一助としていく。
生命・地球	平均正答率は、県の平均とほぼ同等の68.8%だった。 ○ホウセンカの育つ順と草たけの関係読み取ることで、県の平均を16.9ポイント上回り、昆虫の育ち方で完全変態と不完全変態の昆虫を理解することでも、12.3ポイント上回っている。 ●昆虫のからだのつくりを答える発問では、昆虫の脚は胸についていることを理解することは県の平均とほぼ同等の85.7%だったものの、体の特徴から昆虫か昆虫でないかを判断することでは、県の平均を28.4ポイント下回っている。また、太陽の動き方をもとに午前、正午、午後の影のでき方を指摘することでは、県の平均は35.5%であったが、10.5ポイント下回っている。	・自然の生き物の観察では、昆虫が嫌いな児童も多いことから、すぐに実物を示すのではなく、ICT等を活用した映像資料等を多く活用することで、子供たちの興味・関心を高めていく。 ・観察では、日常の経験や体験を想起させながら、様子や成長の違いを確認して観察するようにしていく。太陽の動きについてもICT等を活用し、観察だけでなく、映像資料等を交えながら視覚的に学べるようにしていく。

宇都宮市立東小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「学校の授業時間以外に、ふだん、1日当たりどれくらいの時間、読書をするか」では、1時間以上読むと答えた割合は27.5%で、県の平均を6.4ポイント上回っている。朝の活動や、図書室の時間を利用して本を読んでいる姿が見られる。今後は、図書館司書と連携して本を紹介する活動を行いながら、様々な分野の本に触れさせる機会を設けたい。

○「1か月に、何さつくらい本を読むか」では、「11さつ以上」と答えた割合は37.9%で、県の平均を11.9ポイント上回っている。週に1回、図書室での貸し出しの時間を確保していることが、この結果にもつながったと考えられる。

○「勉強をしていて、おもしろい、楽しいと思うことがある」では、肯定割合が86.2%となっており、県の平均を4.7ポイント上回っている。普段から、積極的に発言する児童が多く、授業に関して意欲的に参加している。今後も、学習をすることの楽しさを感じられる授業を展開していきたい。

●「家で、学校の授業を復習している」では、肯定割合が34.4%となっており、県の平均を19ポイント下回っている。学習の定着を図るには、授業の復習が効果的だと言える。宿題のほかにも、自主学習などを通して、復習することを定着させたい。

●「家で、学校やじゅくの決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」では、肯定割合が47.2%となっており県の平均を13ポイント下回っている。自主学習の大切さや方法等について指導していく。

●「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」では、「はい」と答えた割合が31.0%で、県の平均を3.7ポイント上回っているが、「いいえ」と答えた割合は37.9%で、県の平均を17ポイント上回っている。得意だと感じている児童が多いが、苦手だと感じている児童も多い。聞き手に分かりやすく話を伝える方法や、誰に対しても話ができる雰囲気作りを行っていききたい。

●「算数の問題をとく時間は十分でしたか」では、「時間があまった」と答えた割合は62.1%で、県の平均を10.9ポイント上回っているが、「足りなかった」と答えた割合は20.7%で、県の平均を15.1ポイント上回っている。国語や理科でも、「時間があまった」と答えた割合と、「足りなかった」と答えた割合が高く、問題を解くスピードに差があることが分かる。学力の差が大きくなる時期でもあるので、個に応じた指導を大切にしながら個々の学習意欲の向上を図っていく。

●「分からない国名や地名があったら、インターネットや地図帳などを使って調べている」では、肯定割合が44.8%で、県の平均を18.3ポイント下回っている。授業で地図帳を使う機会が少なかったのも要因の1つと考えられる。今後は、地図帳を活用する時間を確保するとともに、タブレットを使った地名の検索やグーグルアースなどを活用することで、意欲を高めさせたい。